
このおっさん、マジでツンデレ。

unbelievable_kazoo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

このおっさん、マジでツンデレ。

【Nコード】

N4924S

【作者名】

unbelievablekazoo

【あらすじ】

ドライブスルーのあるハンバーガー店でアルバイトをしている方のちょっとしたお話。

ドライブスルーがあるハンバーガー屋で長くバイトをしている大学生の私。

ドライブスルーってメニューの看板があるところで車を停車させて注文を言ってから、お会計するところまで行って、そこでお会計を済ませて商品を貰うというのが基本の流れなんだけど、それを知らないのかいきなりお会計のところまでやってきちゃう人がたまにいるんだよね。特に夜中。

その日もそんな客がいたんだけど、会った瞬間がものすごく感じが悪くて、イラッとしたわけ。高級車で来店、多分40代後半のメガネのおっさんでビシッとしたスーツを着た、見るからにエリートマン。声は低くて小さいから聞きづらいし、何よりムカついたのはその口調。咳払いをして、

「携帯クーポンってこれだけ？　まあいいや、メニューさっさと見せて」

ものすごく上から目線な態度。うっわ、こいつぜってえ私のこと下に見てるし、ってすごく不快に感じた。

イライラを隠しながらレジの前に立っていたんだけど、しばらくしても何も言わないし、メニューをただずっと見てるだけ。その間にドライブスルーのお客が一人来た。

やっと注文を言い始めたたらやっぱり声が小さいし、低いし、おまけに早口。聞き取れなかったからもう一度聞き直すと、咳払いしてめんどくさそうに言いなおすし。しかもその言い方が今度はえらくゆっくりに言ってるで喧嘩売ってるかのよう。

さらに氷水をMサイズでストローさしてくれとか言いだすし。マジで注文も面倒な客。

注文するだけで時間がけっこう掛かったから、厨房ではすぐにハンバーガーとか出来上がる状態になっていたわけで、会計を済ませ

たら一分以内に商品が渡せるようになっていた。さっさと商品渡してこんな奴とさっさとお別れしたかったのに、その客は

「氷水だけ先にくれ」

とか言って、私が渡すと後ろにお客が待っているのにそこで氷水を飲み始めやがった。商品貰って車を前に動かしてから飲めばいいのにとマジで思ったら、何種類もの錠剤せんぞくと粉薬こなぐすりをその場で飲み始めた。ああ、なるほど、この人喘息ぜんそくやらそういう病氣を持っていたのね。無駄に多い咳払いも低く小さな声もそういうわけか、納得。

よくよく考えてみると、お客がこっちのペースに合わせる必要は全くない訳で、お客は自分なりのペースで注文しても全く悪くないわけじゃん。店側は何秒以内に注文を受けて、何秒以内に商品を渡してとかをいつも気にしているんだけど、速さなんか全てのお客が求めているはずがないわけで、そんなのでイラっとするのも変な話なんだろうな。

Mサイズの氷水も全ての薬を飲みきった時には空になったらしく、その空になった紙コップを私に渡してきたら、「ぬるい水を三分の一だけいれてくれ」と言ってきた。なるほど、素直に私はそれに応じた。ごめん、さっきは水を入れすぎた、と言いたくなった。

それを渡して、すぐに先ほど注文された商品も渡したら、そのおっさんが咳払いして

「もう出来上がったの、なるほど。早いね、ありがとう」

と言ってさっさと車を発進させて行った。その「ありがとう」が妙に心地よかったのは、多分、あのおっさんがマジでツンデレなのだからだと思う。

(後書き)

ご拝読ありがとうございます。

ハンバーガー店でアルバイトをしていた友達から聞いたお話をベースにして書いてみました。なので、このお話はフィクションです。

読み終えて下さった方、よろしければ一言でも良いので感想を頂けると嬉しいです。今後の活動の励みとして、また参考としていきたいと思っています。

最後になりましたが、こんな後書きまで読んで下さり、本当にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4924s/>

このおっさん、マジでツンデレ。

2011年10月8日23時29分発行